

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 ひなぎく )

事業所番号	0691500060		
法人名	社会福祉法人長井弘徳会		
事業所名	グループホームリバーヒル長井館町		
所在地	山形県長井市館町南9-72-10		
自己評価作成日	平成 31年 2月 9日	開設年月日	平成26年 6月 2日

活気あふれる商業施設の中に当事業所はあります。近隣のスーパーや商店からの買い物や地区行事への参加、保育園児の慰問通して地域の方々と交流がもてるよう配慮しております。各ユニットでは菜園がありその成長と一緒に眺めたり手入れをしながら会話を楽しみ収穫した野菜と一緒に調理しながら季節を感じ、毎日のリハビリ体操やテレビ体操、レクリエーションを通して健康維持に繋がるよう関わりを持ってあります。カンファレンスではたくさんの目でその人の思いや希望を汲み取る事が出来るよう職員全員でアセスメントを行い、入居者のみなさんがいきいきと生活を送ることが出来るよう支援しております。法人内に5棟のグループホームがあり、合同で研修会を行うと共に職員全員でアセスメントすることにより気づきの目を養い個々のスキルアップ、チームとしてのレベルアップへと繋がるよう努めております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	平成 31年 3月 20日	評価結果決定日	平成 31年 4月 10日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※1ユニット目に記載

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
55 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	62 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	設立時に職員の思いや考えをまとめた理念を事業所内に掲示し、年度初めに職員全員で見直しを行っている。現在の所変更はなく、自分たちの目指すケアとしてネームの裏にもはさみ、意識付けを行い、理念に添った関わりが出来ているか、ケース検討会などで確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年2回子供会主催の資源回収の際には古紙を提供している。また地元の神社例大祭では黒獅子がホーム前まで来て頂きご祈禱をいただいた。職員のみではあるが、地域の神社境内清掃・防災訓練・さいとう焼きへの参加や保育園児の慰問、年度末の餅つき会では推進委員の皆様を招いて開催している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中でホームでの入居者の方の様子を伝えながら認知症の方への支援のあり方を伝えている。また、外出時や受診の付き添い時には自分たちの対応の仕方から支援のあり方を地域の方に理解していただけるように働きかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政より地域包括支援センター職員、地域代表より民生委員、家族代表の方、ホーム職員とで2ヶ月に1度会議を開催している。ホームの運営状況や入居者の日頃の様子などの報告を行い、委員の方からは行政の動きや地域の状況などを伺い質問や要望など自由に意見交換できる場となるよう努めている。その意見から質の向上へ繋がるよう努力している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて市職員より行政の動きや他事業所などの情報を頂き意見交換を行っている。地域包括支援センターへ出向している法人職員からも行政の動きや地域住民の現状等も教えて頂いている。入居を希望されている方からの質問に対しての相談を行政に確認したり協力関係を築けるよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	法人の研修会に参加した職員よりスタッフ会議にて伝達講習を行ったり、資料を配布する・更衣室へ身体拘束禁止行為の明示・身体拘束委員会を立ち上げ現在の状況を話し合い、スタッフ会議で職員へ伝達を行うなど職員それぞれが知識と理解の向上へとつながるよう働きかけている。入居者の立場となって考える場を持ち入居者がのびのびと生活していただけるような環境作りを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の研修会に参加した職員よりスタッフ会議にて伝達講習を行ったり、資料を配布するなど職員それぞれが知識と理解の向上へとつながるよう働きかけている。職員間でも相談しやすい雰囲気作りを心掛け、虐待防止に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習する機会はなかったが今後のスキルアップの為機会を設け実施していきたい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居が決定した際、事前に契約書・重要事項説明書を家族へ渡し内容を確認して頂き、入居当日も説明し署名・押印を頂いている。質問など納得していただける返答が出来るように努めている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の中でご家族代表の方より意見や質問、要望等頂く場を設けている。また、ご家族の方も参加して頂く行事の際や面会時等個々に会話をしながらご意見や要望をサービスにつなげている。ホーム内には意見箱を設置しいつでも投函出来るように準備している。			
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議で意見や提案を職員間で話し合いながらサービスの質の向上へと繋げている。また、会議以外でも気軽に相談できる環境作りや口頭・伝達用紙等を活用し情報共有に努めている。運営に関しての悩みや方向性の確認など随時エリア部長へ相談・助言を頂き職員へ伝達している。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホーム長と面談の機会を設けている。また、普段何気ない会話の中から悩みや意見等確認し職員の思いを汲み取っている。行事や業務と通して職員の努力と実績の把握をしながら各自が向上心を持って働けるよう環境作りを心掛けている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修、グループホーム合同研修会へ可能な限り参加したりユニット会議においてケア検討会を行いスタッフ全員でその方の困り事を考える機会を設けている。ケアプラン作成時にはスタッフ全員でセンター方式(姿シート)を記入しその方を観察する力をつけレベルアップできるような取り組みを行っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	山形県グループホーム協議会置賜ブロック会に参加し他事業所との交流を図り情報交換を行っている。年に1度交換実習を通して新たな発見や自分たちのケアの振り返る機会を設けている。法人5棟のグループホーム間でも互いのレベルを上げるため定期的な研修会を行っている。			
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み受付後、ご自宅や施設・病院等へ事前訪問し本人の困り事や不安事、要望などお聞きし把握している。ご本人の発する言葉や思いを大切に少しでも不安なく安心して過ごしていただけるようお一人お一人に耳を傾けている。希望時にはホーム内見学も行い不安解消に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からのご相談を受ける際には気軽に親しみやすくお話が出来るような環境を設定している。ご家族が困っていることや不安なこともしっかりと耳を傾け一緒に方向性を考えていくことで信頼関係が築けるよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを利用する段階でご本人がご家族に対し最も最善の支援は何かを考えサービスの提供に努めている。在宅時からの情報をたくさん得ることでご本人と家族の思いを確認しながら良好な関係性が築けるように努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の言葉やご家族からの情報からよりご本人らしく生活を楽しく送っていただけるよう支援を行っている。昔の話を伺ったり調理方法や習慣を教わりながら日常を共に過ごしている。入居者の表情や気遣いの言葉などから元気を頂いている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来訪時には日常の様子や変わったことがあればお伝えし、必要に応じ電話連絡も行っている。来訪時はゆっくりと過ごせる様配慮を行い1年に4回季刊誌において状況を伝えている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や馴染みの方が来訪した際はゆっくりと過ごせる場の提供を行っている。また、行きつけの美容院へはご家族のご協力を得ながら外出し馴染みの人や場所との関係を継続出来るように支援している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を把握し一緒にお茶を飲んだり談話や作業をすることで関わり合いを持ち孤立を防ぎまた、円滑な関係を継続できるように見守りや声かけを都度行っている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方へ面会に行きこれまでの関係性が継続出来るように努めている。主治医との面談の際はご家族と一緒に参加させて頂き今後の方向性やご本人・ご家族の想いを尊重できるように相談や支援に努めている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフ全員で姿シートを記入することで多数の視点から一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。又、日々の生活の中でも何気ない言動や表情からも入居者の思いや願いを把握するよう努めている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前訪問の際、お話を伺ったり事前にセンター方式シートへの記入を依頼している。それにより今までの生活歴・習慣などスタッフ全員で情報共有を行っている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の情報や入居後にその方と一緒に作業をしたり関わることで能力の把握に努め、また、心身状態や能力の変化に気づけるよう情報を共有している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前にご本人やご家族の希望を事前に確認しプランを作成している。3ヶ月ごとのモニタリングを行うことで現状に添ったプランであるかを定期的に検討している。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの実践状況、入居者の言動や行動をありのまま記録に残し、スタッフ間で情報を共有している。アセスメントの際は記録している言動や行動から思いを汲み取りプランに反映させている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年末に餅つきの会を運営推進委員の方の協力を得ながら行い一緒に食事をする事で外部の様子をお聞きしたりしながら楽しい時間を過ごすことが出来るよう努めている。また、地域の保育園などにも協力を頂きホームへ招くなど気分転換を行いながら楽しい時間を過ごせるように支援している。		/	
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際には在宅生活からの継続でかかりつけの医師にご家族の協力を得て受診にでかけている。かかりつけ医師との情報共有として生活の様子や心身の状態を受診時連絡表を活用しながら報告し、かかりつけ医師からは診察の結果や指示・アドバイスを記入頂き日頃のケアに活かしている。ご家族が受診の付き添いが難しい場合は職員が代行したり往診をお願いし対応している。		/	
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康管理や医療面での相談やアドバイスは法人看護師が医療連携看護師となり対応している。緊急時や、状態の大きな変化時はかかりつけ医と連絡を取りながら救急医療との連携を図っている。		/	
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合には入居者の必要な情報を医療機関に提供している。入院中の状態などに関してはご家族より連絡を頂いたり、医療機関に訪問して状況を得ている。退院される際には医療期間等でカンファレンスに参加して相互に不安なく過ごせるように対応している。		/	
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、看取り対応の方はおられないが、そのような対象になった際にはかかりつけ医やご家族との話し合いの場を持ち入居者にスムーズな対応ができるよう支援していきたい。 入居時には、重度化の指針をご家族と一緒に確認し署名を頂いている。		/	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	1～2ヶ月に1度マニュアルに基づき事業所で訓練を実施し実践力を身につけられるように努めている。又、訓練の反省を行い、入居者の状況に合わせてマニュアルの見直しを行っている。緊急時に備え搬送のマニュアルや症状別の対応表をすぐに確認できるよう準備している。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署指導のもと、年2回火災避難訓練を行っている。運営推進会議の中でも訓練を行ったり地域の防災訓練にも参加し、他職員へも伝達を行っている。事業所でもマニュアルを作成し、独自でも訓練を行い災害に備えている。食料等はホームで日用品などはエリアで備蓄を行っている。			
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人ひとりが利用者のプライド・尊厳を大事にし声かけや関わりを行っている。また、入居者の思いに寄り添ったケアが出来るよう職員間での申し送りで共有している。			
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	衣服の選択や飲み物など自己決定出来るような声かけに配慮をしている。日々の関わりの中で思いや願いを汲み取れる様傾聴している。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを職員間で共有し希望や体調に合わせた支援を行っている。その人らしい特技を活かせる環境作りに努めている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1度ホームに来る理容室では入居者の希望で散髪やひげそりを行っている。お化粧の習慣のある方は持参して頂き身だしなみを整えて頂いている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	作業を分担し、食事作りに取り組み役割を持つことで入居者の活力に繋げている。食事量や固さ、好みに配慮して提供出来るよう工夫している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取量や思考に合わせた食形態や代替品を提供し栄養が取れるような対応を行っている。また、体調や状態に合わせて主治医へ相談助言を行っている。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけを行っている。週2回の義歯洗浄剤を使用して義歯消毒を行っている。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中・夜間の尿量を確認し排尿のあった時間を伝達するとともに定時での誘導、声かけに努め排泄の失敗がなく気持ち良く排泄できるよう支援している。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に牛乳やお茶の時間の際オリゴ糖入の飲み物の提供したり、また、毎日同じ時間に体操を行い自然排便へと繋がるよう支援している。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	カレンダーに入浴日を記入し事前に何時頃がよいかご本人と相談し入浴していただいている。入浴中は安全を確保しながらゆっくりと湯船につかり、手の届かないところはお手伝いさせて頂きながら気持ち良く入浴できるよう支援している。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定時で居室やフロアの温度・湿度を確認し快適に過ごすことが出来るよう調整している。又、居室ごと日の当たり方が異なるためカーテンを引くなどで調整している。エアコンの設定を「静」にすることで音量が気にならないように配慮している。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の準備は職員2名で確認しながら準備を行っている。服薬の際は、服薬介助・内服後の残薬の有無を確認する等担当職員を決め、確実に内服できるよう支援している。薬の変更があれば記録・伝達を行い薬一覧表に記載されている錠数を都度変更している。		



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日畑の作物を眺め日々の成長・収穫するまでの楽しみを感じたり入居者から収穫したいとお声があった際は一緒に畑へでかけ収穫している。また、毎食後の食器拭きや洗濯干しなどお一人お一人の役割として認識し出来る能力に合わせて支援を行っている。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に添ったドライブの企画を設け季節感を味わいながら気分転換ができるよう努めている。また、ご家族とともに外出し外食や買い物など楽しい時間を過ごすことができるよう支援している。			
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出する際には自己管理できる入居者には財布を持って頂き好きな物を選んでご自分で購入できるように見守りを行っている。また、金銭トラブルの無いよう残金を毎日チェックしたり使用しないときは財布を金庫に預らせて頂いている。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年写真付きの年賀状をご家族へ送っている。字がかける方には宛名やコメントを記入して頂きご家族との関係性が途絶えないようにしている。希望があれば、電話が出来るように取り次ぎ、お話が出来るよう支援している。携帯電話を持参されている方もおり着信に気づかないときは電話にでられるようさりげなく声がけを行っている。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が快適に過ごせるように毎日温度・湿度を確認し管理を行っている。冬期間はフローアと各居室に加湿器をおきカーテンにAP水を噴霧したり濡れタオルを干すなど加湿に努めている。日中日差しが強い時にはレースのカーテンを閉めるなど配慮を行い、また、季節にあった装飾や花などを飾り季節感を感じられるようにしている。			
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方と食事や話し合い、作業ができるような食席を考え過ごしている。又、和室の空間があり、ソファや座椅子を用意しゆっくりとTVを見たり休めるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者が以前使用していた家具など馴染みのものを持参して頂いたり、ご家族の写真を飾るなど心地よい居室になるよう配慮している。備え付けのベットを使用している方が多いがご本人の希望で布団で休みたい方がおられれば布団を用意し使い慣れた枕や肌掛けなど持参して頂き安心して眠れるようにしている。</p>			
54		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>台所前には昇降テーブルを置き、入居者の体型に合わせて高さを調節し料理や食器拭きなど作業しやすいようにしている。</p> <p>掃除用具を入居者がわかる場所に設置したり手が届く物干しを準備し掃除や洗濯物が出来るようにしている。</p>			